

「いっしょうけんめいがんばるって、すばらしい」

学校長 濱田 真司

本年度も、いよいよ終盤を迎えようとしています。今、この原稿を書きながら1年間を振り返ってみると、本当にいろいろなことがありました。学校や学年全体で考えてもこれだけたくさんの方がいるのだから、子ども一人一人の視点から見ると数え切れないくらいの経験や出会いがあったことだと思います。そのたくさんの経験や出会い、教育活動等が、子どもの学びや育ちを支えているのです。そして、その一つ一つにどのような思いや気持ちをもって取り組むかで、子どもの成長は大きく変わってくると感じています。

平島小学校の子どもたちは、何事にもいっしょうけんめい取り組みます。そして、自分の力を尽くして、がんばるのです。わたしは、そんな子どもたちのがんばっている姿をみるのが大好きで、心底応援したくなります。そして、そのようながんばりを誇らしくも思っています。それでは、どうして子どもたちは、「いっしょうけんめいがんばる」のでしょうか…。

まずは、「いっしょうけんめいがんばる姿は、かっこいい」と思える文化が平島小学校の子どもたちのなかに、息づいているのだと思います。これは、これまでの先輩たちが築いてきた伝統でもあります。先輩のいっしょうけんめいがんばっているかっこいい姿をみて、自分もああなりたいと感じ、先輩の姿をまねていくのです。

次に、子どもたちのがんばりを認め受け入れるまわりの子どもたち、教職員、そして何よりも保護者のみなさんがいるからだと思います。結果だけをみるのではなく、その過程をしっかりと認めているから、子どもたちはがんばれるのです。例えば、マラソン大会で1位になった子に「1位になってすごい。」と声をかけたとします。結果を認められたことはうれしいのですが、「1位でなかったら価値はない。1位にならないと褒められない。」と感じてしまうかもしれません。「いつもがんばって練習していたね。だから、1位というすばらしい結果につながったんだね。本当によくがんばっていたね。」と声をかけられると、結果だけではなく、自分のがんばりをしっかりとみて、認めてくれたという気持ちになるでしょう。子どもたちのなか、子どもを取り巻く環境に、相手のがんばりを認め、一人一人を大切にする雰囲気があるのです。

平島小学校の子どもたちのがんばりの背景には、このようなことがうまく関係しているのではないかと考えています。(ほかにも、理由はあると思いますが…)

わたしたちは、これからも、平島小学校の子どもたちのがんばりを応援し、子どもたちががんばれる、がんばりたくなるような環境を大切にしていきたいと思っています。



